

## 「乳幼児ケアヘルパー研修講座」受講アンケートの声

平成27年度に受講された皆さんのアンケートの一部をご紹介します。

### ■第1回：子どもの心の発達と大人のかかわり

- 現場では、自分を含め、子どもを変えようとする傾向が見られるが、今後は、子どもを変えようと思わず、保育者の意識、関わり方を変えることで、子どものより良い変化に繋げる、そういった保育を行っていきたいと思いました。【40代 保育士】
- 社会のワクにあてはまるより、近付いていきながら、子どもがどうしたいかを見守る姿勢が大切なんだと思いました。多くの方が、よいところを出し合い、その子に関わることで生まれる幸せを増やしていきたいです。【特別支援学校 看護師】
- 普段とは別の角度から発達のことを考える・とらえる機会になりました。‘まじめになりすぎない’ことと‘いろんな人の手をかりる’ということが子育てにとって必要と気づけました。【児童発達支援事業 40代 職員】

### ■第2回：リスニング ～ カウンセリングの基本となる聞き方 ～

- 職務上、保護者の方と話す機会も多いので今回の“リスニング”は一番興味のある内容でした。あらためて「きく」ことの難しさを感じましたが、自分で習ったことを少しでも意識して「きく」姿勢を身につけることができたと思いました。【30代 主任保育士】
- どうしたら話をしてくれるだろう、どうやって聞き出そうかとその方法が知りたくて受講したが、「待つ」ことの重要性・必要性を改めて感じられよかった。【60代 子育て支援ボランティア（元小学校教員）】

### ■第3回：育ちが気になる子どもの理解とその家族の支援

- 育ちが気になる子どもはたくさんいますが、データに振りまわされず、子どもを支援する視点を持ち、一人ひとりの何かを感じれる支援をしていけたらと思います。グループワークで色々な困り事などの話を聞いて、勉強になりました。【40代 児童発達支援施設 職員】
- ‘できる（⇔できない）’という問題に着目しているだけであって、いかに狭い視点で子どもをとらえていたのか気づかされた。現場では、とかく‘正論、何が正しいのか’に話がかたよりがちだが、大きな視点（いのち・つながり）でふんわりと子どもの発達、お母さんの成長によりそっていけたら・・と思う。【40代 児童発達支援施設 職員】
- 子どもは一人一人みな違う。一人一人をよくみて対応していきたい。生きていること、生きて、この場所（施設）に来てくれることがうれしいと感じた。【60代 子育て支援ボランティア（元小学校教員）】

### ■第4回 子どもの食育 ～基礎知識と実践～

- 実際に保育所や自分の子どものことで目にするような話が多かったので、とても聞きやすかったです。アレルギーや肥満、成長不良の子どももいる職場なので、給食やおやつなど、様子を見ていこうと思いました。【40代 保育士（パート）】
- 食に関する問題を持つ子や保護者の心のケアも保育士にとって大切な役割であると改めて感じ、子どもの安全と心身のケアを行う為にも食に関する知識が必要だと感じました。【40代 保育士】

### ■第5回 子どもの成長発達と親支援、保護者へのコミュニケーションワークの実際

- 親を支援することが、子育ての最大の支援であるということを講義やグループワークを通して理解できた。我々は親と子のつながりを築いていく仲介役の務めを果たしていければと感じた。グループワークを積み重ねることで、共感が広がり、支え合い意識が芽生えることが体験できた。【特別支援学校 教員】
- まさに今、直面している数々の事柄に対してかかわる大切な内容をたくさん学ぶことが出来ました。ぜひ、保育に生かし、子ども達、保護者の方に返していけたらと思います。【40代 幼稚園型こども園教諭】

### ■第6回 遊びからの子どもの理解とその援助

- 子どもの遊びは日常生活から全てを通して遊びということを改めて考えました。気持ちの成長やストレスの発散も遊びを通してすることなので、遊びの展開、工夫が必要なのだと実感しました。【20代 病児保育施設 保育士】
- 遊びにも意味があり、保育者の経験により伸ばしてあげることができる所がたくさんあると思うと、まだまだ経験不足だと感じました。事例によってグループワークで話し合うことにより、いろんな考え方があり参考になることばかりでした。【幼児教育従事者】